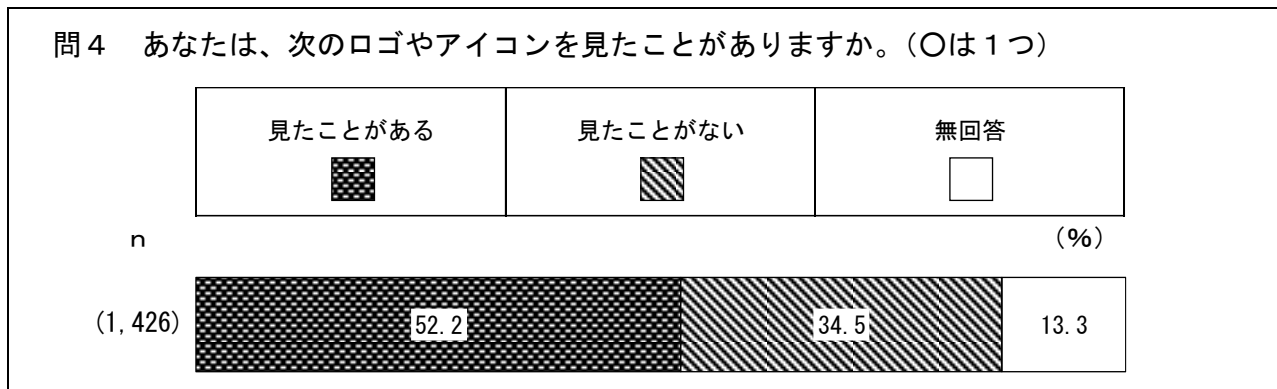


2 <sup>エスディーゼーズ</sup>SDGsについて

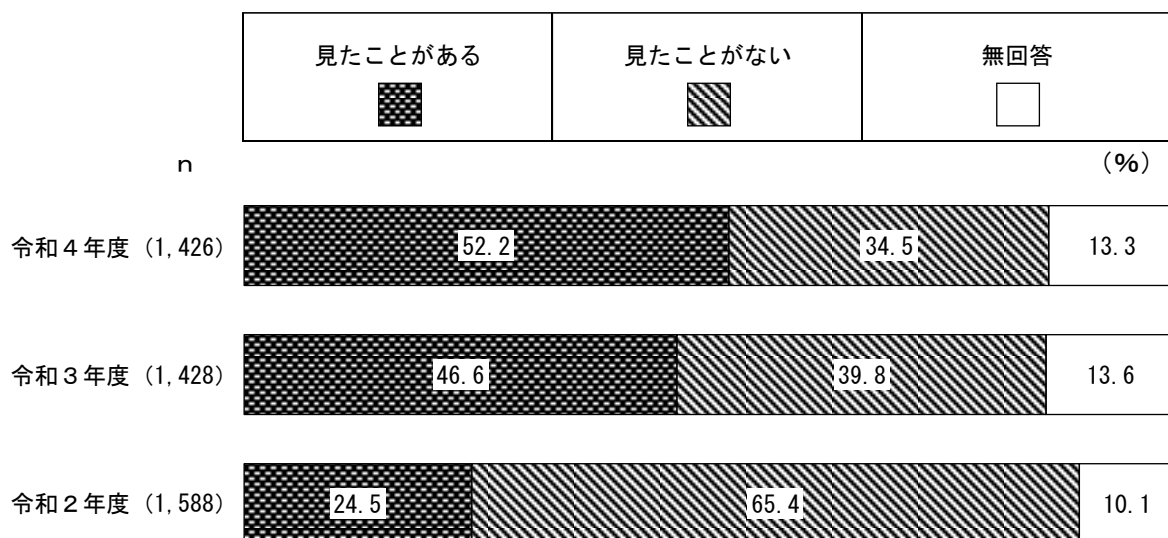
(1) SDGsのロゴやアイコンの認知状況



SDGsのロゴやアイコンを見たことがあるかたずねたところ、「見たことがある」(52.2%)が5割を超え、「見たことがない」(34.5%)は3割半ばとなっている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「見たことがある」は令和3年度より5.6ポイント増加している。

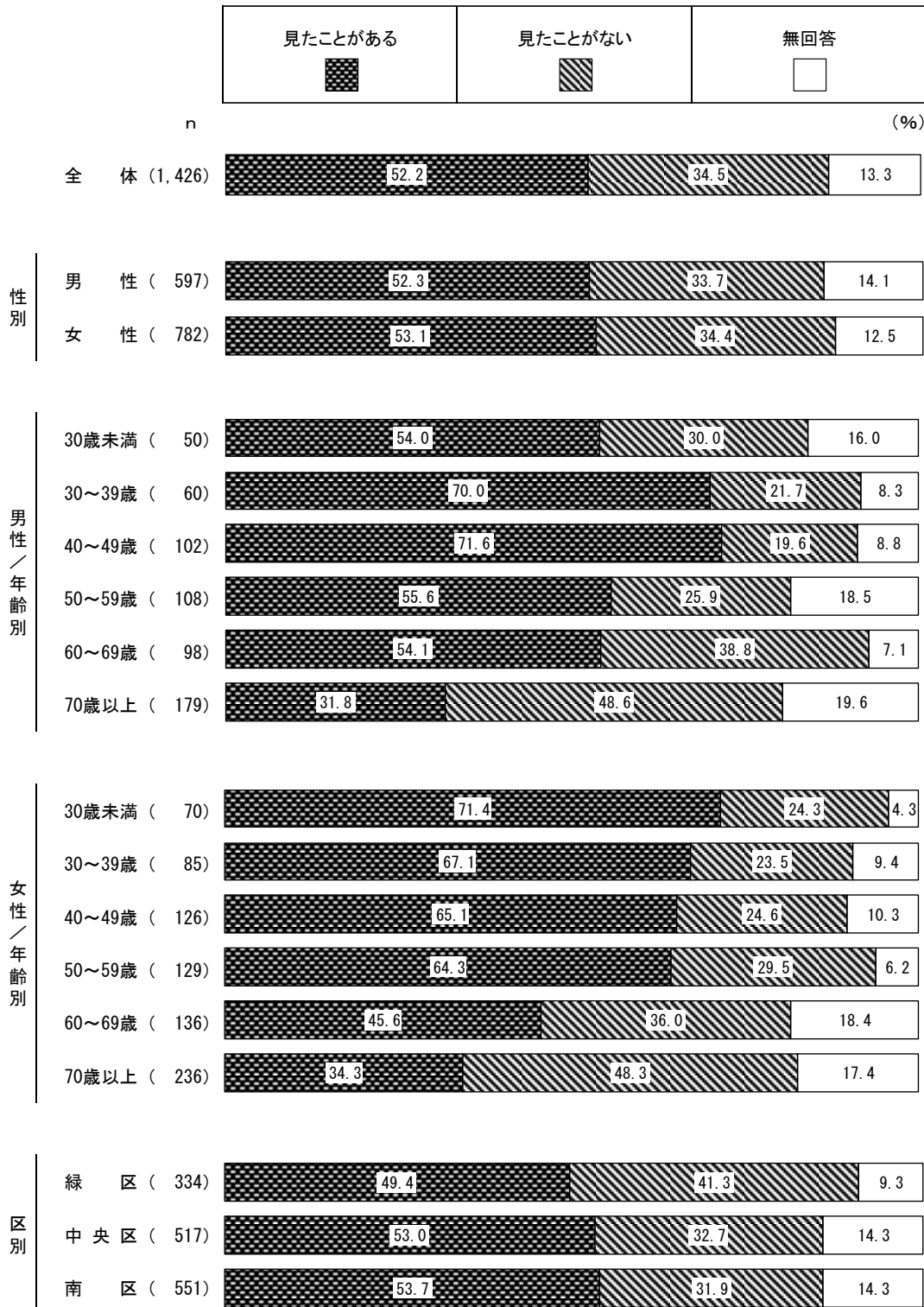


<性別・性／年齢別・区別結果>

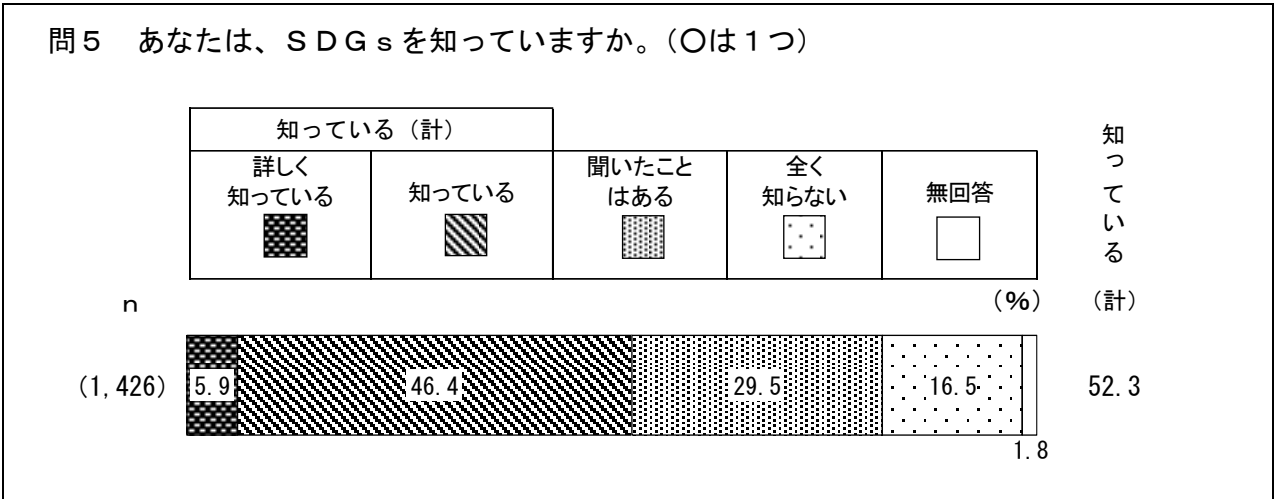
性別でみると、「見たことがある」は女性が男性より0.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「見たことがある」は男性40～49歳、男性30～39歳、女性30歳未満で7割を超えて高くなっている。一方、「見たことがない」は男性70歳以上と女性70歳以上で5割近くと高くなっている。

区別でみると、「見たことがない」は緑区で4割を超えて高くなっている。



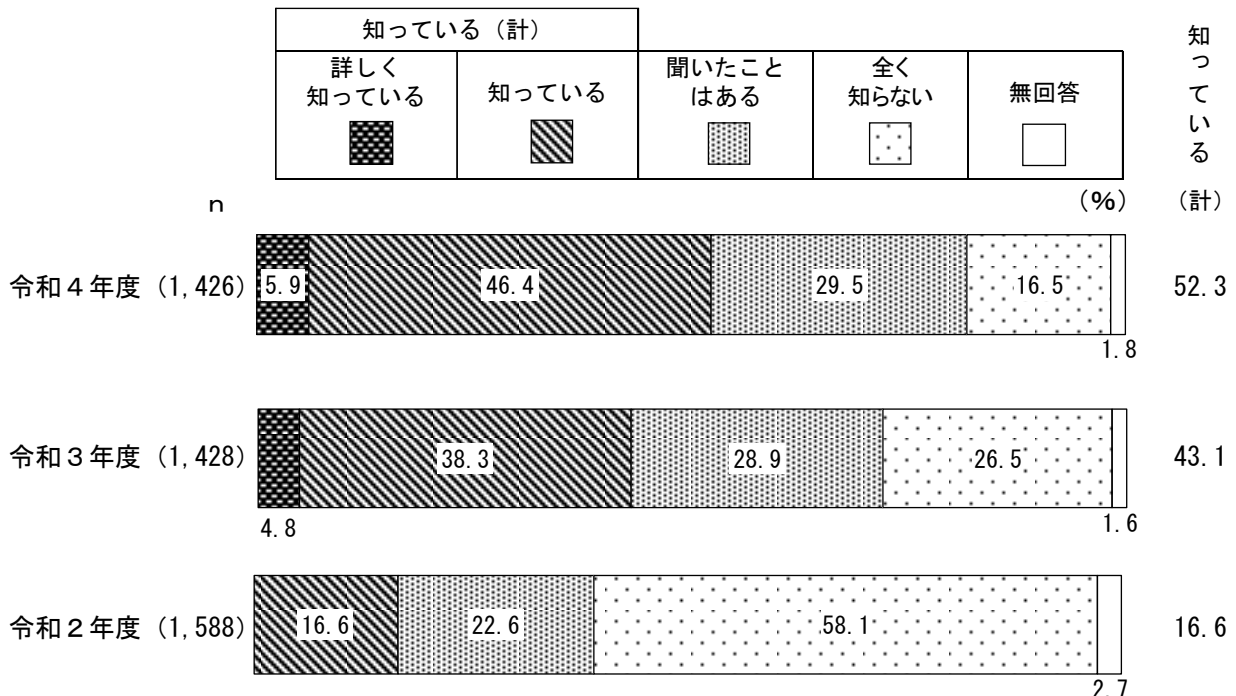
(2) SDGsの認知度



SDGsを知っているかたずねたところ、「詳しく知っている」(5.9%)と「知っている」(46.4%)の2つを合わせた《知っている(計)》(52.3%)は5割を超えている。一方、「聞いたことはある」(29.5%)は、3割近くとなっている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、《知っている(計)》は令和3年度より9.2ポイント増加している。



※「詳しく知っている」は、令和3年度から追加された選択肢

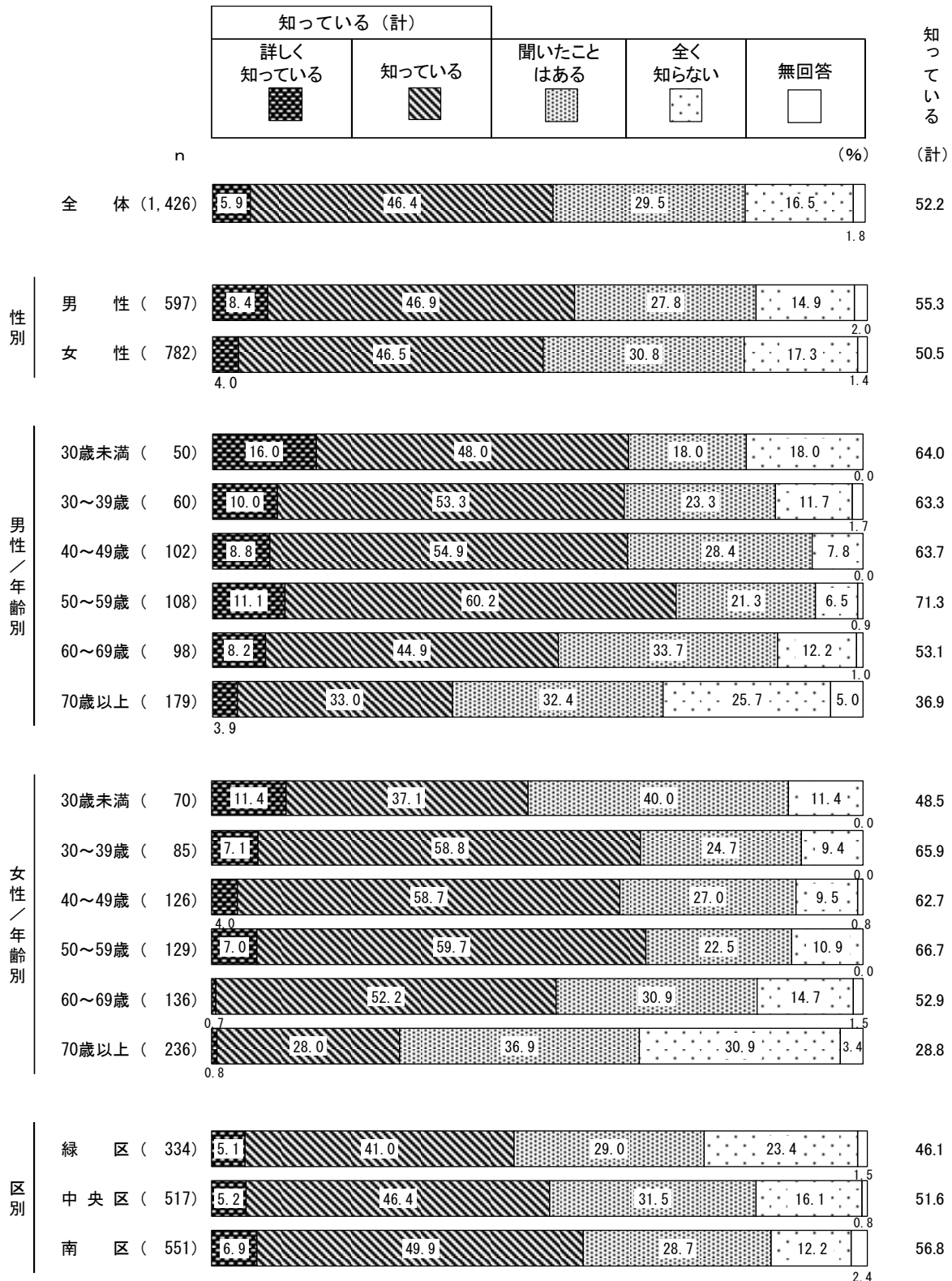
※「聞いたことはある」は、令和2年度では「聞いたことはあるが内容については知らない」となっていた。

<性別・性／年齢別・区別結果>

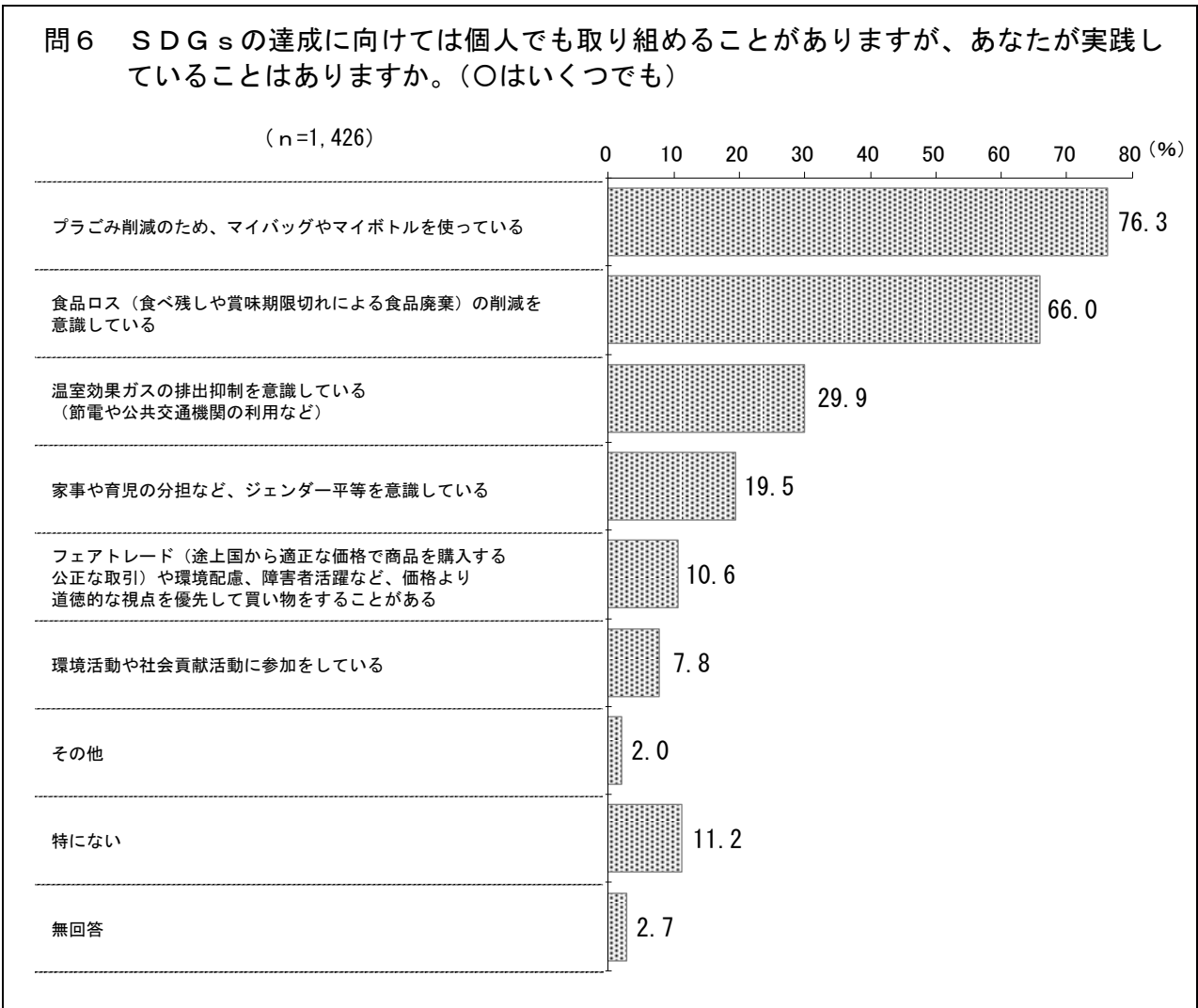
性別で見ると、「知っている（計）」は男性が女性より4.8ポイント高くなっている。一方、「全く知らない」は女性が男性より2.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「知っている（計）」は男性50～59歳で7割台と高くなっている。一方、「全く知らない」は女性70歳以上で3割と高くなっている。

区別で見ると、「全く知らない」は緑区で2割半ばと高くなっている。



(3) SDGsの達成に向けて実践していること



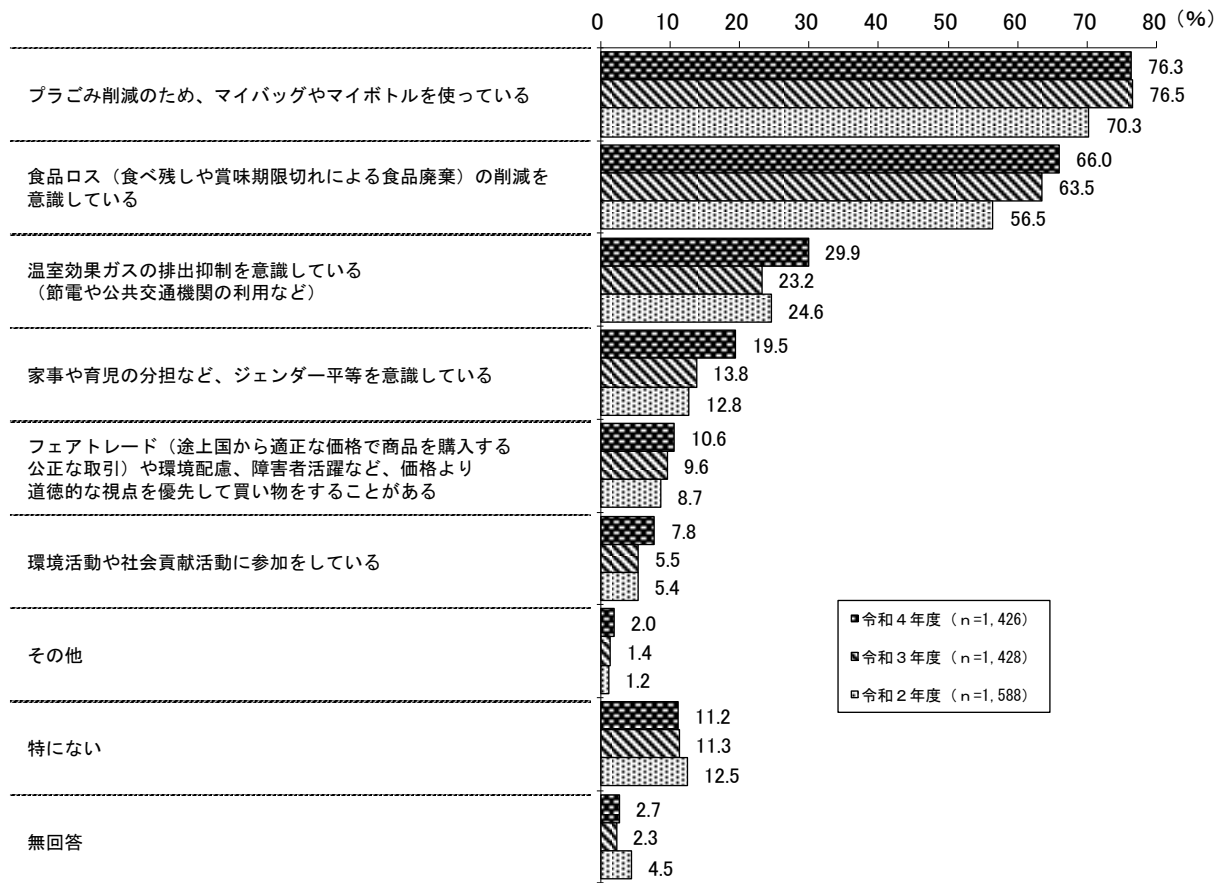
SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(76.3%)が7割半ばを超えて最も高く、次いで、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」(66.0%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している（節電や公共交通機関の利用など）」(29.9%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(19.5%)と続いている。

<経年比較>

過去の調査結果と比較すると、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」は令和3年度より2.5ポイント増加している。

「温室ガスの排出抑制を意識している」は令和3年度より6.7ポイント増加している。

「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」は令和3年度より5.7ポイント増加している。



※「フェアトレード（途上国から適正な価格で商品を購入する公正な取引）や環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をすることがある」は、令和2年度では「フェアトレードや環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をすることがある」となっていた。

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別で見ると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」で24.4ポイント、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」で11.9ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。

性／年齢別で見ると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」は女性60～69歳で9割に近く、高くなっている。

区別で見ると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」全ての区で3割半ばと高くなっている。

